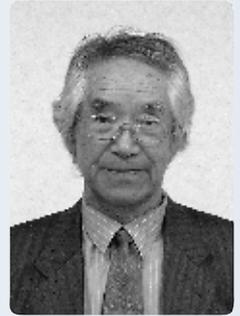


第4回は清田地区町内会連合会 牧野(まきの)会長のお話です。清田区誕生10周年を迎えるに当たり、区役所とともに区のまちづくり活動を支えてきた町内会連合会の会長に、清田区の10年間、またはこれからの清田区について語っていただきます。



清田地区町内会連合会
会長 牧野 晃

—清田区誕生10周年
を迎えて一言—

健康に清田区誕生10周年を迎え、皆さま方とともに喜びたいと思います。

分区から早くも十年、まさに「光陰矢の如し」の感を深くしているところです。

—地区の活動で
特徴的なことは—

平成十一年三月、有明地区に産業廃棄物処理場建設計画が示されたのを受け、清田町連ではただちに特別委員会を設置。翌年、清田区五町連協議会、緑のまちづくりの会などの賛同を得て「有明産業廃棄物処理場検討委員会」を組織し、企業に対し十八項目の申入書の回答を求め、交渉を続けました。なぜならこの場所は、厚別川上流の高台に位置し、予想を超えた大雨の場合、土砂崩れなどで有害物質が流出し、地下水や河川が汚染される恐れがあったからです。

時は流れ、平成十六年八月、企業の産廃施設で違法が発覚。急転直下、十二月に設置許可申請を企業自ら取り下げ、六年の歳月を要した一件も落ち着いたのです。



不法投棄ごみ撤去作業 (有明地区)

不法投棄ごみ撤去作業も行いました。有明地区山林内のごみ撤去作業では、平成十七年八月の炎天下の中、災害防止協力会の方々の奉仕と延べ百五十人の参加を得て、地域住民と行政が一体となった大規模な撤去作業を行いました。ごみの量は、実に十一トントラック十九台分もありました。また翌年、真栄西公園奥のごみ撤去作業を実施。古タイヤ六十本、ストープ、テレビなど多数のごみを前に、不法投棄監視の必要性を痛感しました。

—そのほかの活動は
どうですか—

「福まち(福祉のまち推進センター)」の活動では、一人暮らしのお年寄りの支援活動を続けてきました。具体的には、高齢者の見守りと援助を基本に、ふれあいバス旅行、三代交流お楽しみ会など、また子育て支援として親子バス遠足、ミニオリンピック大会を実施しております。



福まちの「お楽しみ会」

そのほかに民生委員・児童委員による「子育てサロン」もあり、地域のみんなで支え合い、人に優しいまちづくりが成果を上げつつあります。安全、安心の地域づくりでは、「地域の子どもは地域で守る」をモットーに、防犯ボランティアに取り組んで二年目を迎え、親や子どもたちからも感謝の言葉が聞かれます。

「いつも守ってくれてありがとう。おかげで事故に遭わずに卒業できました」と小学校卒業式の帰りに卒業生から卒業証書を見せられ、涙が出るほど感激したという報告もありました。



防犯ボランティア

最後に、この十年間の最大の思い出は、ノルディックスキー世界選手権札幌大会が白旗山を会場に開催。熱戦が全世界に放映され、その同じ場所です。



ノルディックスキー世界選手権札幌大会での応援 (白旗山競技場)

広告